

「基礎・基本」

校長 二瓶 晃一

ところで皆さんは、体操競技の「大車輪」という技を知っていますか。鉄棒でグルグルと回るやつだ。

例えば、内村航平をテレビで観たことがあると思う。個人総合でロンドンとリオデジャネイロのオリンピックで2連覇している。彼の鉄棒の演技を観ていると演技の素晴らしさに感動すると同時に、どうしてあんなに“グルグル”と回ったり、手を離したりできるのだろう、とってしまう。

彼は、体操教室を開いている両親のもとに生まれ、物心つく頃から体操をやっていたそうである。練習の虫で納得がいくまで同じ練習を何度も何度も繰り返すそうだ。

話は変わって勉強の話をする。苦手な人が多いと思われる英語の話だ。

私は英語の教員だが、生徒の皆さんからよくこんな質問を受ける。「英文をすらすら読みたいが、できないのは何故でしょうか。」私はそんな人にいつも、「文法はきちんと分かっていますか、単語は覚えていますか」、と訊くことにしている。するとこのように訊いてくる人は皆が皆、判で押したように「その両方とも苦手なんです。ダメなんです。」と答えてくる。

当たり前のことだが、英単語がわからないで英文が読めるはずがない。外国語として英語を学んでいるのに、英文の構造を理解するための文法の知識がなくては英文が読めるはずがない。至極当然なことである。

しかし、勉強のこととなると英単語や文法等の基礎・基本ができていなくても、英文がすらすら読めてしまう、と勘違いしている人が多い。それは私にとっては、逆上がりも満足にできないのに、内村選手のように大車輪を軽々とやってのけたい、と言っているように聞こえる。

以上は例えの話である。私は勉強には基礎・基本が大切だと考えている。難しい問題に出会った時こそ、基礎・基本が大切になってくる。大車輪ができるようになるためには、まず逆上がりができる、次の段階に進みながら地道なトレーニングを何度も何度も繰り返しやらなければならない。もしかして、普通の運動能力の持ち主ではできるようにならないかもしれない。

あるプロスポーツ選手が言っていたことを思い出す。プロとアマチュアの差は、同じ退屈な練習を100回繰り返せるか1000回繰り返せるかの差だそうだ。私もこの考えに賛成である。これは勉強にも当てはまる。同じことを何度も繰り返してやり基礎・基本を頭に叩き込むのである。そうすれば難しいことだって簡単にできてしまうはずだ。

皆さん、私の考えに賛同してくれますか。